

第19回 社会福祉士 専門科目 (やまだ塾)

国家試験 問題・解説

=①老人福祉論<事例⑨>= (問題88～問題90)

【老人福祉論】

(老人福祉論・事例問題)

次の事例を読んで、問題88から問題90までについて答えなさい。

(事例)

X市Y町で一入暮らしのA女(76歳)は、要支援1で介護予防通所介護を週1回利用している。

A女は、3年前から地域の指定介護老人福祉施設に入居している夫のB男(81歳)を毎日、家から1キロの道のりを歩いて訪ねることを日課としている。夫妻の一人息子のC男は新幹線で2時間離れた市で教員をしている。A女は、女学校時代の友人と電話のやりとりをするが、地域の住人との付き合いはほとんどない。指定居宅介護支援事業所のA女担当のD介護支援専門員は、最近A女がB男を訪ねて帰った後、その日のうちに電話をしてきて、「これからB男を訪ねます」と一日に何度も訪問を繰り返したり、指定介護老人福祉施設から帰る際に道に迷うことなどが続いているため、C男に電話で面接を行った(問題88)。

1週間後、C男が4か月ぶりにA女に会うと、料理の得意であった人にもかかわらず、調味料の味付けを間違ったような料理になってしまったり、銀行の通帳が見当たらないと言い、狐が来て通帳を盗んでいったと訳の分からない言動が続いた。D介護支援専門員との面接でA女の現状と今後について相談すると、地域包括支援センターを紹介された(問題89)。

C男はD介護支援専門員と一緒に地域包括支援センターを訪ねた。C男は今後のA女の暮らしを支えていく方法についてC男自身がA女を呼び寄せ、家族で同居することを妻と相談したこと、A女がB男と一緒に指定介護老人福祉施設で暮らせるように考えられないか、A女の現状をできるだけ継続するような方向はないものだろうか、と地域包括支援センターのE職員に語った。また、C男はA女の女学校時代の友人が、隣町にあるケアハウスで暮らしており、A女は友人を訪ね便利なところできたと話していたとのことで、ケアハウスの状況についても詳しく知りたいと相談した。地域包括支援センターではE職員を中心にA女の面接と訪問調査を行った上でA女を含めた関係者によるケースカンファレンスを行うことにし、A女、B男の生活をどのように支えるかについて検討が行われた(問題90)。

問題 88 このときのD介護支援専門員の対応に関する次の記述のうち、適切なものに○、適切でないものに×をつけた場合、その組み合わせとして正しいものを一つ選びなさい。

<http://www.yamadajuku.com/>

やまだ塾

Copyright(C) 2007 Shunsaku Yamada. All rights reserved.

- A. A女の在宅一人暮らしをこのまま継続していくときに推測される危険な状況をC男に伝え、なんらかの対応をするよう求めた。
- B. A女がB男を毎日何度も指定介護老人福祉施設に訪ねているため、それを止めさせる必要があることをC男に理解させるよう努めた。
- C. A女の状況が変わってきていることをC男に分かりやすく伝えながらも、C男の不安を高めないように心掛けた。
- D. C男に対して、A女を支えるための幾つかの方法を詳しく紹介した。

(組み合わせ)

	A	B	C	D
1	○	○	×	×
2	○	×	○	○
3	○	×	×	○
4	×	○	×	×
5	×	×	○	×

問題 89 C男との面接の準備及び面接時のD介護支援専門員の対応に関する次の記述のうち、適切なものに○、適切でないものに×をつけた場合、その組み合わせとして正しいものを一つ選びなさい。

- A. C男に会う前に、指定介護予防通所介護事業所の職員に連絡を取り、A女の最近の状況について情報収集を行った。
- B. C男に会う前にB男の入居している指定介護老人福祉施設の相談員に連絡を取り、最近のA女の状況について情報収集を行った。
- C. 面接時にA女の認知機能を含めてアセスメントした結果を詳しくC男に説明し、認知症の原因について理解を深めさせることを第一の課題とした。
- D. 介護予防通所介護参加時及び指定介護老人福祉施設にB男を訪問している際のA女の行動の変化についてC男に説明し、今後の方策を検討した。

(組み合わせ)

	A	B	C	D
1	○	○	×	○
2	○	×	○	×
3	×	○	○	×
4	×	○	×	○
5	×	×	○	○

問題 90 ケースカンファレンスに関する次の記述のうち、適切なものに○、適切でないものに×をつけた場合、その組み合わせとして正しいものを一つ選びなさい。

- A. A女とB男が指定介護老人福祉施設で一緒に過ごせるようD介護支援専門員が指定介護予防通所介護事業所に依頼した。
- B. E職員がケアハウスのサービス内容を前もって調べておき、A女とC男の考えを支援しながらケアハウス選択の可能性について話し合った。
- C. A女自身の発言は主観的になるので、指定介護予防通所介護事業所の職員が、A女の代わりに毎日の暮らしの中の楽しみや最近の戸惑いについて説明した。
- D. 地域包括支援センター、指定居宅介護支援事業所、指定介護老人福祉施設、指定介護予防通所介護事業所の関係者が、増加する1人暮らし高齢者の地域課題を話し合った。

(組み合わせ)

	A	B	C	D
1	○	○	×	○
2	○	×	○	×
3	×	○	×	○
4	×	○	×	×
5	×	×	○	×